

## 平成 29 年度第 2 回広島県公立大学法人評価委員会議事要旨

- 1 日 時 平成 29 年 7 月 26 日 (水) 14:00~15:00
- 2 場 所 サテライトキャンパスひろしま 5 階 503 会議室 (広島市中区大手町一丁目 5-3)
- 3 出席委員 金安委員長, 曾余田委員, 山川委員, 福田委員
- 4 議 題 平成 28 年度業務実績評価案について
- 5 担当部署 広島県環境県民局大学教育振興担当大学振興グループ  
電話 (082) 513-2752 (ダイヤルイン)

### 6 会議の内容

事務局から, 配付資料により, 業務実績評価 (案) の説明があった。

委員の意見に基づく業務実績評価 (案) の修正については, 委員長に一任のうで調整を図ることが了承された。

#### 【委員意見】

- 評価案において, 評価「2」とされている項目として「No.29 一貫した学士課程教育の推進」がある。県立広島大学の各種国家試験の合格率はそのほとんどが全国平均を上回っているが, 作業療法士試験の合格率のみ全国平均を下回っている。国家試験の合格率は全体としてはかなりいい結果を残しているため, 評価「2」は厳しいという意見もあると思われるし, 作業療法士試験 1 種類でも全国平均を下回ったものがあるのであれば, 叱咤激励を込めて「2」とすべきという意見もあると思われる。
- 作業療法士試験の合格率が前年度比で約 20 ポイントも下落していることを鑑みると, 評価「2」が妥当と思われる。なお, 社会福祉士試験の合格率についても, 全国平均は低く難易度の高い試験のようであるが, 同試験合格率の経年変化を見ると, 徐々に低下してきているのが気になる。
- 県立広島大学が, 教育面で当該国家試験の合格率を重要視しているということであれば, 作業療法士試験の合格率が全国平均を下回ったことは意味が重く, 評価「2」は妥当と思われる。
- 叱咤激励するという意味で, 評価「2」は妥当と思われる。
- それでは, 小項目 No.29 に対する当委員会の評価は「2」とする。
- 県立広島大学は, アクティブ・ラーニングに注力しているという印象がある。アクティブ・ラーニングに関連する項目を評価「4」に上げるべきとまでは言わないが, 全体評価に係る記載の中で, 評価「3」だが評価できる点として取り上げている取組の一つとして, アクティブ・ラーニングへの注力も追記したらどうか。
- 「がくしゅう」の一般的な漢字表記は「学習」であるが, 評価結果 (案) では「学修」という表記が採用されている。「学修」という表記を使用する意図を, この表記が最初に出てくるタイミングで何かしらの方法で確認できるようにしてほしい。「評価規準・評価基準」という言葉の説明についても, 同様の対応をとってもらいたい。
- 評価結果 (案) の 19 ページにある「No.91 自己点検・評価実施と評価結果の活用」に関連して, 課題・意見の書き振りを第二期中期計画期間の終わりが見えてきているので, 来年度 (平

成30年度)が総括の年であることを意識した書き振りにする必要があるのではないか。つまり、「次の第三期中期計画(期間)につなげていくように」といった書き振りがよいのではないか。

- このご指摘はとても大事だと思う。私たちが何かをするとき、締切があることがモチベーションになる。「締切を目指してより良いものにしていく」という、このご指摘を確認できるような書き振りにするのが望ましいと思われる。
- 評価結果(案)の15ページにある「No.60 教職員の意識醸成」について。研究者は、研究倫理に関して無防備で知識がなく、研究者として育つ過程で教わる機会がないというイメージを持っている。大学院教育の中で、研究者の倫理を教育する仕組みを設けるのが望ましいと思っている。
- ある大学では(研究倫理に係る説明会等への参加は)必須とされている。この項目(No.60)中の「課題・意見」の書き振りは『参加率(受講率)100%と必ずなるよう取り組まれたい』と『必ず』という表記を加え、強調すべきではないか。
- また別の大学でも、研究倫理に係るチェックリストが定められていて、その中で研究倫理に係る説明会等への参加率(受講率)は100%と定められているので、この項目(No.60)中の「課題・意見」の書き振りは、『必ず』という表記を加え、強調した方がよいと思われる。さらに言うと、(研究倫理に係る説明会等を)受講しただけでなく、次のステップとして理解度が100%となるようにすべきと求められる水準がより高くなるようとしている。文科省からeラーニングシステムが提示されているので、このようなシステムを活用するのも1つの方法かと思われる。
- そういう意味では、この項目(No.60)中の「課題・意見」の書き振りは『取り組まれたい』ではなく『徹底されたい』という、より強い印象を与える表現にした方がよいと思われる。
- 評価結果(案)の11ページにある「No.25 地域社会で活躍できる実践力等の育成」では、『教育効果の検証』という表現が使われており、『検証』ということだけが強調されているように感じられるが、その後に行う『改善(の取組)』により、より教育効果を上げていくことの方が重要だと思う。
- ここで使用されている『検証』という言葉は(PDCAの一要素である)『改善』も含む形で使われているものと思われるが、PDCAを回すことが大事ということを確認するという意味では『改善』という表現も盛り込んだ方がいいものと思われる。一方で、県立広島大学では、フィールドワーク等の地域での活動は活発に行われているが、それにより県全体にもたらされるインパクト、つまり、このような活動により県全体の魅力がアップしたのか、県の課題が解決したのか、このような視点で地域活動の効果を測ることも大事なのではと考えている。
- 他の公立大学で財務評価をさせていただいた時に、地域の活性化等、地域にどれだけインパクトを与えたかということ住民に聴き取りして、その結果を検証材料に使っているという事例があることから、そのような踏み込んだ検証の仕方があっていいのではと思っている。
- 地域での活動を行った時は、大学側としてはやりっ放しではなく、成果が出たら、レポートを作成するなどして、地域に還元することが大切である。地域とかわる時は、大学側はある種の作法をもって対応するのが望ましい。
- 評価結果(案)の18ページにある「No.73 組織運営に係る留意事項と体制の強化」の記載内容で『学長オフィスアワーを年55回開催』とあるが、これを見て、理事長は意欲的で、充分に対話の機会を持たれているのは素晴らしいと感じた。

## 7 会議の資料名一覧

### 【配付資料】

資料1 平成28事業年度公立大学法人県立広島大学業務の実績に関する評価結果（案）

資料1（別冊） 小項目評価（案）

参考資料1 平成28年度業務の実績に関する報告書（抄）

参考資料2 平成28年度業務の実績に関する報告書附属資料